

# 支部協だより

第100号

発行所  
 NTT労組退職者の会  
 沖縄県支部協議会  
 沖縄県浦添市城間4-35-2  
 TEL.098-870-7101  
 FAX.098-875-7450  
 責任者  
 黒島 善市

## 支部協だより一〇〇号を祝う



会長 黒島 善市

一九九五年一月一日創刊号は産声をあげた。退職者の会沖縄県支部協を結成した八五年九月七日から一〇年目の節目の年だった。

その創刊号は稲福会長の「年頭のご挨拶」と総会の報告で、片面ながらカラー刷りだ。両面刷りは一年後の第六号からで、一面左下隅に(裏面も見てください)と記されている。

目を見張るのは、当初から年四回発行をコンスタントに行い、〇五年から最低年七回と大幅に増やし、会の活動などを発信し続けている。その中から支部協の

動き、歴史がみてとれる。

例えば、一六号までの四年間はワープロの手作りで写真も少しぼやけていたり一七号は事務所がこれまでの那覇市楚辺から現在の浦添市城間へ変わっている。

記事の内容も、平和、米軍基地関連が多くを占めているが、それは基地問題が県民の生活そのものであり、毎年、情報労連の「沖縄ピースデー」などの平和行動もあるからでしょう。また特徴的なものとして、「ゆいまーる」制度に関連して、生り年(年男・年女)の祝い金や一声を掲載している。

嬉しいことには、この間中央協議会の機関紙「コンク

ルで、優秀賞二回、努力賞と特別賞をそれぞれ一回受賞したことが、  
 ただ、反省点も多々ある。会員の声や地域での活動を

## 1号毎の積み重ねに感謝!



沖縄総支部・執行委員長 濱元 盛任

取り上げるなど、双方向性を持たせたいし、編集会議なども充実していきたい。  
 ここまで来られたのも、総支部や会員の皆様のご協力があったればこそと感謝申し上げます。  
 一〇〇号を機に、愛され親しまれ、楽しく読まれる機関紙作りに努力していきたい。

「支部協だより一〇〇号発行」おめでとうございませう。日頃からNTT労組の取り組みにご理解を頂き情報の共有を図って頂くとともに、退職者の会会員への情報発信ツール・ていねいな組織活動として活用して頂いていることに心より敬意を表します。  
 退職者の会会員の皆さまの期待と協力を頂き「政權交



## 子どもたちの夢育む宜野湾市へ

私は、「安心・安全に暮

らせる地域社会をつくり、地域や家族の絆を大切にする市政を実現」し、「市民との対話」を通して市民のニーズを的確に把握しながら取り組みべき課題をしっかりと受け止めていきます。同時に安里猛市長に託した多くの政策課題と安里市政が着手した政策・事業も実現します。

私は、引き続き、地元優先の公共工事を着実に実施

↓ 今後も「支部協だより」を通しなお一層の「情報交換」組織強化に繋げて頂き、退職者の会会員皆様

が明るく元気で沖縄総支部を支えて頂くようお願い申し上げます。 伊波 洋一

します。また、この間、担ってきた七年半の市政で二〇〇三年、就任時の税収70億円が約90億円(約プラス20億)に増加するなど確実に宜野湾市が経済的にも活性化していることを数字が示しています。

一方、普天間基地返還後の跡地利用開発事業の10年間で約6万人の雇用が見込まれ、開発後は3万2千名の雇用へと変わっていきま。県の試算でも跡地整備の直接経済効果は約5000億円とされています。今、宜野湾市長選は、このような経済面を含めて着実に前進させる意味でも大変重要となっております。

私は、安里市政を継承し、子どもたちが夢を育む宜野湾市の創造、安心・安全な地域社会をつくり、地域や家族の絆を大切にする市政、開かれた市政を着実に実現します。

二〇一二年一月吉日

元宜野湾市長

伊波 洋一



# 会報100号記念特集によせて

初代会長 安里 清林

(大阪府在)



退職者の会沖縄支部協議会の機関紙「支部協だより」百号発行おめでとございます。

結成二〇周年記念式典・祝賀会に参加した際、結成当時の厳しい会活動を考えると、退職者の会活動が活発なことに感動しました。あれから早くも七年目ですが、日常活動やサークル活動など「支部協だより」で知らせて頂きありがたく思っています。

さて、東日本大震災に東北地域で大規模な被害を被った状況は、終戦直後を思い出しました。また、原発事故は全国に被害をもたらしました。原発廃止しかありません。私たち沖縄にとつて「新たな基地は絶対許さない」という県民の思いは当然です。普天間基地撤去こそ重要です。社会保障の充実、消費税増税反対な

ど私たちの生活を守る闘い等ぜひ頑張っていきたいと思えます。

これまでの「支部協だより」の内容がすばらしいことから、カラーの百号記念に大いに期待し、お祝いのあいさつと致します。

二代会長 富水 盛一

(南城市在)



退職者の会会報100号発行おめでとございます。これまで発行に携わってこられた役員、編集委員に対し心より敬意を表します。

私が一九八九年第二代会長に就任した当時は、まだ二〇名弱の会員で、運営にもさしつかえる程でした。あれから二〇有余年、会員も増え続け、現在七三二名に至っておりますことは誠に感懐深いものがあります。これも会員のご協力によるものだと思えます。また「会報」による会員

への情報提供は、退職者の会の発展に大きく寄与していると思えます。県支部協の定期総会のお知らせ。激動の時代、高齢者の生活を

守り、豊かに過ごすための生きがいづくりを常に追求し、現・退一致の活動を推進していること。このことが会報から伝わり毎回来しみにしています。

今後のますますの会の発展を祈念いたします。

三代会長 稲福 政吉

(那覇市在)



一九九五年一月一日創刊号から、二〇〇〇年八月二十二日の二十三号まで携わった者として、一〇〇号達成は感懐無量である。すなわち、おめでととお祝いを申しあげたい。二十三号で会員は三九九名と記してある。創刊当時は会員も少なく、年四回の季刊にしよう

県支部の新型のカラーコピー機を使用して、たしか五十部プリントして配ったと記憶している。創刊号がカラーであるので、一〇〇号もカラーで記念号として発行したらとても楽しい、期待したい。

一〇〇号発行まで過ぎ着けた、執行部の労を多量としたい。本当に御苦勞さまでした。「継続は力なり」の言葉どおり目標を未来永劫として、発行し続けることを希望する。

「支部協だより」を讀む



副会長 垣花 廣光

創刊号 95年一月一日発行 題字揮毫は会長 稲福 政吉 大きさB4判。

新会長の意気込みを感じる。一、二号ともにカラー刷り。五号までは片面刷り、年四回の発行が04年まで続く。05年から発行回数が増える(年7〜12回)。99年に組織名が「全電通退職者の会」から「NTT労

組退職者の会」と変更。会旗も新しくなる。

記事は年間行事(総会の案内や活動の周知、共済生協の契約更新・年会費の徴収等)を中心に各種会議(全国交流集会、平和フォーラム、研修会等)参加報告、全国総会や親睦を兼ねた支部協代表者会議、等が定期的に掲載される。

県支部主催の海外研修にも参加。年頭挨拶は会長と支部の執行委員長や副会長、幹事の小文も。地域の記事はバラエティーに富む。トウシビーを迎えた方々のメッセージ、地区協の活動紹介、サークル活動や中央紙に因んだ「生き生き通信」で地域での活動も紹介。在職中は手も出なかつた「民俗、歴史、史跡、歌碑」の歴史政策。短歌の紹介(これは1点しかなかつた)、時宜を得たエッセー。「事務局より」の中で世評や事務連絡、発行回数とも関係するが、選挙の年は選挙特集の感じ。国会議員、知事、県議、市長、市議等の選挙。知事選挙は現知事の二枚舌にやられた。分けても政権交代の期待は非常に大きかつた。政権交代後の普天間基地の県外

移設は可能な感を与えたが裏切られた。機関紙「支部協だより」にもそれが見られる。

課題を少し。投稿が少ない。文化欄(琉歌、川柳、俳句、短歌、エッセー等々を随時募集しては)など、会員が参加する紙面を。会報と活動は同輪の関係。17年間で100号まで発行。その地道な努力に感謝する。

民踊サークル 東崎原 久子

「踊りの輪は人の和」。

民踊はいつでもどこでも誰ともすぐ踊れる楽しいみんなの踊りです。

平成七年、全電通総合文化祭に退職者の会として初出演、同八年にサークルを発足。結成10周年記念総会に出演(ブラザでいこ)。大名特別老人ホーム、讃名老人ホーム慰問。真志喜老人クラブ総会、嘉敷ハイッ自治会敬老会に出演。サークル仲間とのトゥシビー祝いや結婚式に出演。退職者の会総会やOBとの交流会で出演等々ボランティア活動をこなして楽しんでいきます。また、赤い羽根街頭



募金に三年協力。八十年代半ばの方を先頭に健康作り、ユンタク会と楽しくイキイキ人生を楽しんでいます。週一回の練習(現在会員13名)。

● 稽古は 毎週金曜日  
午前10時~12時  
於・与儀ビル3階



三線サークル

松田 竹徳

三線サークルは今年で結成一六年を迎えました。

琉球王朝時代から脈々と受け継がれてきた琉球古典音楽は、沖縄の人々の貴重な文化遺産であり宝であります。また、沖縄には庶民の生活の中から生まれた数々

の民謡があり、唄三線で人々の心を和ませてくれます。

現在一二人の会員がおり、毎週土曜日の午前中稽古をやっております。古典音楽を中心に琉球民謡等も稽古しておりますので、退職者の皆様の多くの参加を希望いたします。

これからも会員の心の絆を大事にしながら楽しいサークルとして継続していききたいと思っております。



歴史散歩サークル

長嶺 律雄

二〇〇四年四月一〇日に始めた歴史散歩は「城岳同窓会」の講師は、N.T.Tに勤務の傍ら四〇年もの間地域史の研究に研鑽してこられた阿波根直孝さんです。那覇地域を小字単位に月一回程度の散歩を兼ねての「地域まわり」でしたが、

那覇市内を終わると、南部地域の市町村単位となり散歩の地域が広がりました。各地域の「ウタキ」「カール」「大里のウフジシ」「集落道角に立つかわいらしいシーサー」を見て、時代経過や存立の由来、当時の人々の生活の様子等説明していただきました。

二〇〇八年六月一七日の西原地域からは、講師は宮良信男(元支部書記)さんにバトンタッチして案内しています。講師の方には、文献資料の整理と作成・現地の手前調査だけでなく、参加者全員が美味しく食べる食堂の確保等配慮を頂いているところです。会員は、二十名、それぞれが日程を調整して参加し楽しんでいきます。



中城城址

散歩日は、毎月第一火曜日・十時集合です。あと残すところ、恩納村の一部と金武町、宜野座村ですが、今年度は、那覇の小字単位の散歩に戻る予定です。一緒にしませんか?

ゴルフサークル

澤岬 勝雄

● 年四回コンバ

十一月・二月・五月・八月



祝 100歳

那覇市議会議員



玉城 彰

「支部協だより」の一〇〇号記念発行を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。黒島会長始め、歴代役員の皆様の並々ならぬご努力に敬意を表します。

今年、沖縄が復帰して四十年の節目の年となります。白・公政権から民主党政権に変わっても日米合意優先、県民無視の米軍基地政策に怒りを禁じ得ません。特に普天間基地の辺野古移設問題は正念場を迎えます。県民の心を一つにして県内移設を断念させ、県外・国外移設の実現に決意新たに頑張ります。

退職者の会の発展と会員の皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、本年も変わらぬご指導とご鞭撻を宜しくお願い致します。

北部地区協

会長 比嘉 弘一

第九回定期総会と忘年会が十二月三日、名護市内の



出雲殿で行なわれ、会員三〇名が参加しました。議長に比嘉厚信さんが選任され、速やかに進行。県支部協・黒島会長のご挨拶をいただき、総会もスムーズに進み終了しました。忘年会では県議・玉城義和氏、名護市長・稲嶺進氏、労金名護支店長・比嘉忍氏の三氏が参加されました。また北部地区協議会を代表して最年長の平良正夫さん(八三歳)の乾杯の音頭で始まり、楽しいひと時を過ごしました。新副会長に女性代表として濱元ナミ子さんが選ばれました。今後の活躍を期待します。



最後に、今年六月に県議選挙が行なわれます。候補者が決定され次第、現退一致で頑張っ行っていきましょう。

**\*新役員紹介**

- 相談役 与那覇誠勝
- 会長 比嘉 弘一
- 副会長 比嘉 厚信
- 副会長 濱元ナミ子
- 書記会計 仲田 宏
- 書記会計 具志堅宗博

# トウシビー おめでとー



おめでとーのこねなさい。

## 卯歳の七三歳の方々です。

平良 景典

①豊見城市史跡ガイドの講習を受講中です。

②散歩をしたり、月三回程度ゴルフレンジで汗をかいています。

③何をするか模索中です。

遠山 時恵

①退職当初は習い事色々々と欲張って楽しんでいましたが今は通一回のカラオケのみ。カラオケレッスンを後、食事やショッピング、おしゃべりと楽しんでいる。②特になし。強いていえば

犬の散歩ぐらい。  
③お金と健康がゆるすかぎり国内外を旅したい。

伊志嶺 泰一

退職後、習い始めたゴルフと地域の方々と交流を深めながらグラウンドゴルフを楽しんでいる。古橋を迎えてこれからも健康で活動できる様、足腰を鍛えて現状維持に努めていきたい。

田盛 正英

大山 恭枝

屋良 朝作

週二回程ウオーキングをして、たまに好きなゴルフを楽しんでいます。希望はないが、われわれ退職者のために会長始め皆さんが尽力下さっていることに感謝。

伊敷 静子

静養中です。

神里 マサ子

ハワイアンフラ頑張っています。七人の会員がメンバーとなり楽しんでいます。

棚原 玄光

宮古島まもる君(警察官人形)の補修を行っています。最近まもる君二〇体の内、一体をまもる君の妹、女性白バイ隊員まる子ちゃんに变身させました。



## ただ今現役

# 祝 山内秀雄さん 文化庁長官表彰!

### 生き生き通信



我々沖縄支部協会の仲間・山内秀雄さん(82歳)が表彰されました。おめでとーございます。大変誇らしく思います。

山内秀雄さんは組踊胡弓演奏家として重要無形文化財「組踊」の保存伝承に尽力、その保護に多大な貢献をしたとして平成23年度文化庁長官より表彰されました。

戦後から現在に至るまで、幾多の苦しい時代を乗り越えてきました。誇りをもって生き抜き続けられたのは、常に生活の傍らに伝統文化が存在したことが力となつたと思われまふ。その伝統文化、沖縄人の精神的支柱である「組踊」(胡弓)継承者として、また後継者の育成に努力していらつしやる山

内さんを誇りに思うと同時に敬意を表します。今後健康に留意して、益々のご活躍をお祈りいたします。

山内さんは腰痛を患い、一時期舞台に立つことが出来ないこともありましたが、そんな時でも、公演のある日は山かけ、後輩の指導に当たり、時には舞台の袖で演奏したこともあり、胡弓奏者としての熱い思いが感じられました。

## 表彰状

山内秀雄 殿

あなたは永年にわたる組踊胡弓演奏家として重要無形文化財「組踊」の保存伝承に尽力し、その保護に多大な貢献をしたとして、平成23年度文化庁長官より表彰されました。

文化庁長官 近藤 誠



現在は文化庁主催で年六回行われる県外公演にも出演するなど、お忙しい日々を送っていらつしやいます。昭和39年沖縄タイムス社が主催する器楽部門(太鼓・笛・胡弓)の第一回胡弓部門コンクールで入賞して以来、常に第一人者、先駆者として活躍する一方、後輩の育成、伝統芸能の保存・継承に心を砕いていらつしやいます。

通常、胡弓は3弦、表現力を高めるため、4弦、5弦と工夫を重ねるなど、納得のいく音を追究する強いこだわりが感じられました。現在、胡弓演奏者が少なく、後継者の育成が課題だそうですね。山内さんによると、胡弓の演奏は歌・三線の音を聞き、その音に合わせながらの演奏となるため、歌三線を極め、その上で、胡弓に専念しなければならず、そこに継統することの難しさがあるとのことでした。

山内さんのウチナーグチ、庭のチーパーパーの黄色い花、ゆつたりした沖縄の風が吹いていました。

略歴  
\*安富祖流 山内秀雄 歌

三線・胡弓研究所を主宰、平成2年4月から平成6年3月までの2年間沖縄県立芸術大学で非常勤講師(胡弓)を務める。

\*国指定 重要無形文化財「組踊」保持者(胡弓)  
(総合認定)  
\*県指定 無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者(地謡胡弓)(総合認定)  
\*県指定 無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者(三線・胡弓)

イハ洋一さんの支援を!!  
一月二〇日、沖縄連第一回幹事会は、連合沖縄の宜野湾市長選挙の提起に基づき、イハ洋一さんを支援、支援することを決定しました。ご協力をお願いします。沖縄県連職者団体連合 事務局長 黒島晋市

カキオーナーについて  
一月二〇日現在、一二件一二万五千円となっております。東日本被災地との絆をより強めていきましょう。お申し込みをお待ちしております。

